

指導の形態	自立活動「構音の指導」 ～自由会話での正しい発音をめざして～	障がい種	言語障がい
-------	-----------------------------------	------	-------

授業の概要やよさ

- ・口の体操や舌の運動など発語器官の運動機能訓練を取り入れる。
- ・自分の発音を録音して聞くことで指導者との違いに気づかせる等、聴覚を活用したアプローチを取り入れる。
- ・教科書を音読したり、日常必要な場面の発音練習をすることで、汎化をねらう。

児童生徒の様子

- ・小学校1年男子
- ・「カ・ク・コ」が「タ・ツ・ト」に置き換わる構音障がいが見られる。
- ・「キ」と「チ」、「シ」と「チ」についても置き換わる傾向がある。



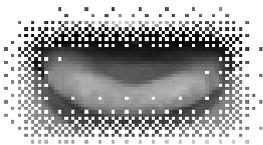
目標

- 「カ行」「タ行」「サ行」それぞれの正しい音を聞き分けると共に、正しい発音ができる。
- 単音、語・文、自由会話の中で、正しい発音ができる。

支援のポイント

1. ウォーミングアップ・現状把握

- 50音口形表
- 「あえいうえお あお」
- 「がぎぐげごのうた」
- 「あいうえおのうた」
- 「きゃきゅきょのうた」を讀む。



<舌の脱力>

2. 運動機能訓練

- ① 舌で押す
- ② 舌を口の中に入れる
- ③ 舌で頬を押す
- ④ 舌で弾ける音を出す
- ⑤ 舌の往復運動
- ⑥ 喉の奥をこする
- ⑦ エラを軽くたたく
- ⑧ 魚のような口をつくる
- ⑨ 口をすぼめる⇔笑う
- ⑩ アラアリアルアレアロ10回

3. 耳の訓練

- 「キ」と「チ」、「シ」と「ヒ」の聞き分け、言い分けの練習
- 指導者の発音を聞いて弁別
- 児童の発音を録画し、自分の発音の弁別をする。
(自分の「チ」・「キ」は、どちらの音か弁別しにくいことを意識し、「チ」・「キ」の音を出す練習をすることを確認する)

4. 構音訓練

- ホットケーキの舌(脱力した状態)で、30秒維持する。30秒×□セット

※1から5の流れで週1時間の学習を行う。

※自分の音の弁別・比較・照合ができ、その構音点も理解できるようにする。

※系統立てた繰り返しの中で、自由会話の中でも無意識に構音できる段階に高めていく。

5. 音読

- 教科書の音読
- 日常よく使う単語・短文の音読 「ポケモン」「学校に行く」等